

バイオメディカルサイエンス専攻（修士課程）

2023 年 度

シ ラ バ ス

神戸大学大学院医学研究科

2023年度 バイオメディカルサイエンス専攻 授業科目一覧

科目区分	授業科目名	単位数	コーディネータ	担当教員
必修科目	バイオメディカルサイエンスA	2	古屋敷	シラバス参照
	バイオメディカルサイエンスB	2	南	シラバス参照
	社会医学・生命倫理・安全	2	篠原	シラバス参照
	バイオサイエンス基本実習	4	各所属分野	各所属分野
	文献解析・プレゼンテーション演習	4	各所属分野	各所属分野
	バイオメディカルサイエンス特別研究	10	各所属分野	各所属分野
	必修科目必要単位数	24		
選択必修科目	シグナル伝達特論	2	鈴木	シラバス参照
	細胞分子医学特論	2	榎本	シラバス参照
	薬物治療学特論	2	矢野	シラバス参照
	基礎解剖学	2	仁田	シラバス参照
	微生物感染症学特論（後期）	2	森	シラバス参照
	統計学（通年）	1	佐々木	シラバス参照
	科学英語（後期）	1	佐々木	シラバス参照
	選択必修科目必要単位数	6		
修了に必要な単位数		30		

注1）指導教員の承認が得られれば、本学他研究科の授業科目の4単位までを修了要件単位数に算入することができます。
注2）地域密着型医学物理スペシャリスト養成コースに関しては、カリキュラムが異なります（下記参照）。

【地域密着型医学物理スペシャリスト養成コース】

授業科目		単位数	コーディネータ	担当教員
	科目名			
必修科目	共通特論Ⅰ	2	佐々木	シラバス参照
	共通特論Ⅱ	2	佐々木	シラバス参照
	放射線治療計画基本演習	3	佐々木	シラバス参照
	バイオメディカルサイエンス特別研究	10	指導教員	指導教員
	必修科目必要単位数	17		
選択必修科目	バイオメディカルサイエンスA	2	古屋敷	シラバス参照
	バイオメディカルサイエンスB	2	南	シラバス参照
	基礎解剖学	2	仁田	シラバス参照
	原子核物理学	2	佐々木	シラバス参照
	放射線物理学	2	佐々木	シラバス参照
	統計学	1	佐々木	シラバス参照
	保健物理学	2	佐々木	シラバス参照
	放射線診断物理学	2	佐々木	シラバス参照
	放射線治療物理学	2	佐々木	シラバス参照
	放射線計測学	2	佐々木	シラバス参照
	情報処理学	1	佐々木	シラバス参照
	医療情報学	1	佐々木	シラバス参照
	放射線診断学	1	佐々木	シラバス参照
	放射線生物学	2	佐々木	シラバス参照
	放射線関連法規及び勧告	1	佐々木	シラバス参照
	核医学物理学	1	佐々木	シラバス参照
	核医学	1	佐々木	シラバス参照
	放射線腫瘍学	2	佐々木	シラバス参照
	医療・画像情報学演習	1	佐々木	シラバス参照
	核医学物理学演習	1	佐々木	シラバス参照
	放射線診断物理学演習	1	佐々木	シラバス参照
	保健物理学演習	1	佐々木	シラバス参照
	放射線計測学演習	1	佐々木	シラバス参照
	科学英語	1	佐々木	シラバス参照
	放射線治療計画臨床研究	3	佐々木	シラバス参照
	選択科目必要単位数	13		
修了に必要な単位数		30		

* 医学物理士の資格のため、理学部開講科目を受講する場合がある。

2023年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	バイオメディカルサイエンスA		
コーディネータ	古屋敷 智之		
授業形式	講義	配当年次	修士1年次
単位数	2単位	選択・必修	必修
曜日・時限	前期 月曜日 13:20～16:40		
担当分野名	膜動態学、薬理学、糖尿病・内分泌内科学、血液内科学、感染・免疫学、生理学、AI・デジタルヘルス科学		
担当教員名	山本泰憲(膜動態学)、永井裕崇(薬理学)、 矢田俊彦(糖尿病・内分泌内科学)、橘吉寿(生理学)、 片山義雄(血液内科学)、玉田紘太(生理学)、國澤純(感染・免疫学)、 谷口将之(薬理学)、樽林陽一(AI・デジタルヘルス科学)		
授業のテーマ	ヒトの体の機能を支える構造・仕組みについて理解を深める。		
授業の到達目標	ヒトの体を構成する分子・細胞・組織・臓器・全身に亘る階層縦断的な知識や考え方を理解する(山本、永井)。 ヒトの体を構成する階層縦断的システム、例えば、内分泌系、代謝系、循環器系・呼吸器系、血液・免疫系、神経系、腸内環境などに関する知識や考え方を理解する(矢田、橘、片山、國澤、玉田)。 ヒトの体の仕組みを研究するためのバイオインフォマティクス、健康・医療情報のAI解析やデジタル関連技術を活用した医薬品開発に関する知識や考え方を理解する(谷口、樽林)。		
授業の概要と計画	前期(4月～9月)の月曜日13:20～16:40に B講義室(外来診療棟 5F)で、ハイブリッド型で行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、通知する。 1) 5/8(月)「細胞:生体分子システムとしての構造と機能」 担当:山本泰憲(膜動態学) 2) 5/15(月)「組織学概論」 担当:永井裕崇(薬理学) 3) 5/22(月)「生体の生理機能(呼吸系・循環系・排泄系)」 担当:橘 吉寿(生理学) 4) 5/29(月)「内分泌・代謝系と生体恒常性」 担当:矢田俊彦(糖尿病・内分泌内科学) 5) 6/5(月)「中枢神経解剖学とシナプス伝達」 担当:玉田紘太(生理学) 6) 6/12(月)「腸内環境から考える健康科学の最前線」 担当:國澤 純(感染・免疫学) 7) 6/19(月)「血液・免疫組織の成り立ち・機能と多臓器連関における役割」 担当:片山義雄(血液内科学) 8) 6/26(月)「医学研究におけるバイオインフォマティクス」 担当:谷口将之(薬理学) 9) 7/3(月)「健康医療情報のAI解析:課題と今後の展望」 担当:樽林陽一(AI・デジタルヘルス科学)		
成績評価方法	各授業で学んだ内容に関するレポート試験90%、授業への参加度10%で評価する。 (欠席もしくは30分以上の大幅な遅刻をした講義については、原則レポート提出や小テスト受験を認めない。但しやむを得ない事情がある場合はその限りではない。)		
成績評価基準	ヒトの体を構成する分子・細胞・組織・臓器に亘る階層縦断的な知識、考え方、研究手法を理解しているか(山本、永井)。 ヒトの体を構成する階層縦断的システム、例えば、内分泌系、代謝系、循環器系・呼吸器系、血液・免疫系、神経系、腸内環境などに関する知識、考え方、研究手法を理解しているか(矢田、橘、片山、玉田、國澤)。 ヒトの体の仕組みを研究するためのバイオインフォマティクス、健康・医療情報のAI解析やデジタル関連技術を活用した医薬品開発に関する知識、考え方、研究手法を理解しているか(谷口、樽林)。		
履修上の注意 (関連科目情報)	各回の授業で取り扱う項目について、関係する書物・論文等に目を通しておくこと。		
事前・事後学修	事前学修:授業で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修:授業で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業で学んだことについてまとめること。 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。		
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的 attitude で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。		
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科 研究棟B 4階薬理学分野 教授室 木曜1限 【連絡先】メールtfuruya@med.kobe-u.ac.jpにて随時受け付けをします。		
今年度の工夫	特になし		
教科書	講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
参考書・参考資料等	講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
授業における使用言語	日本語・英語併用		
キーワード	医学、生命科学		

2023年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	バイオメディカルサイエンスB		
コーディネータ	南 康博		
授業形式	講義	配当年次	修士1年次
単位数	2単位	選択・必修	必修
曜日・時限	前期 木曜日 18:00～20:00（6月15日、29日、7月6日、13日、20日の講義は17:00～18:30に開講）		
担当分野名	シグナル統合学分野、病理学分野、細胞生理学分野、分子脳科学分野、創薬・分子構造医療学（協力分野）		
担当教員名	村田 陽二、北村 俊雄、横崎 宏、藤井 誠志、廣田 誠一、遠藤 光晴、紙崎 孝基、南 康博、金川 基、小林 千浩、梶原 大介、能見 貴人、西野 壽城、森 一郎、前田 朋子		
授業のテーマ	私たちの体は非常に多くの細胞で構成されており、個々の細胞の分子レベルでの異常によって、がんや神経・免疫疾患、代謝・内分泌疾患などの発症や加齢性病変に至ることが知られている。本授業では、主に生体の機能を細胞レベル、分子レベルで理解すること、ならびにその実験手法について理解することをテーマに、シグナル伝達、がん、神経、内分泌・代謝の各領域の専門家による講義を行う。また、本年度より創薬に向けたスタートアップや産学連携活動を推進するために、製薬企業等の専門家による分子標的薬学特論について講義を行う。		
授業の到達目標	・多細胞生物の機能を制御するシグナル機構とその破綻による疾患の発症について例をあげながら学習する。（担当：村田、非常勤講師） ・がんとはどのような病気かを理解し、がんを作る生活習慣、がんの発生・増殖・進展の分子メカニズム、がん細胞と間質の相互作用について説明できることを学修目標とする。（担当：横崎、非常勤講師） ・Wntシグナルなどによる生理的および病的な状況下における細胞の振る舞いの制御について学習する（担当：南、遠藤、紙崎） ・先端のゲノム科学の潮流とその医学・生物学的成果・応用について例を挙げながら学習する。（担当：小林、金川） ・核酸医薬、抗体医薬をはじめとする創薬、老化研究・再生医療などの動向やスタートアップ、産学連携について学習する。（担当：非常勤講師（島）） 本授業により、がんをはじめとする諸疾患の病態メカニズムについて理解を深めるとともに、病態メカニズムに立脚した創薬などの社会実装に向けた方策を考察できるようになることを目標とする。		
授業の概要と計画	この授業は下記のとおり第二講堂（医学研究科研究棟B 2階）での対面、及びオンラインのハイブリッド型で実施する。 1) 4月13日（木）シグナル統合学「クローン性造血と加齢疾患の関係性」 担当：北村 俊雄（神戸医療産業都市推進機構先端医療センターセンター長/東京大学薬学部） 2) 4月20日（木）シグナル統合学「細胞間情報伝達」 担当：村田 陽二（シグナル統合学） 3) 4月27日（木）細胞生理学「がんの発症・進展におけるシグナル伝達（非古典的Wntシグナルを中心にして）」 担当：南 康博（細胞生理学） 4) 5月11日（木）病理学「がんの発生、増殖、進展の分子機構」 担当：横崎 宏（病理学） 5) 5月18日（木）病理学「c-kit遺伝子異常の病態と疾患（GISTを中心に）」 担当：廣田 誠一（兵庫医科大学病理学（病院病理部門） 教授） 6) 5月25日（木）病理学「個別化医療に求められる病理学」 担当：藤井 誠志（横浜市立大学医学部分子病理学教室 教授） 7) 6月1日（木）細胞生理学「脳の発生に関わるシグナル伝達」担当：遠藤光晴（細胞生理学） 8) 6月8日（木）分子脳科学「疾患原因遺伝子の機能解析に基づいた発症機序の解明と治療法」 担当：金川 基（愛媛大学大学院医学部医化学・細胞生物学講座教授） 9) 6月15日（木）創薬・分子構造医療学「バイオ医薬品原薬の製造技術（抗体医薬を中心に）」 担当：梶原 大介（第一三共株式会社） 10) 6月22日（木）分子脳科学「ゲノム科学的手法を用いた疾患遺伝子の探索」 担当：小林 千浩（分子脳科学） 11) 6月29日（木）創薬・分子構造医療学「Idea to Start-up」 担当：能見 貴人（FORESIGHT & LINX 株式会社） 12) 7月6日（木）創薬・分子構造医療学「医薬品の研究開発の概要と核酸医薬品の基礎」 担当：西野 壽城（株式会社ナード研究所） 13) 7月13日（木）創薬・分子構造医療学「核酸医薬品の研究開発動向」 担当：森 一郎（株式会社ナティアス） 14) 7月20日（木）創薬・分子構造医療学「老化研究と再生医療」 担当：前田 朋子（日本ベーリンガーインゲルハイム（株）） 15) 7月27日（木）細胞生理学「骨格筋の維持機構とその破綻」 担当：紙崎 孝基（細胞生理学）		
成績評価方法	授業への参加度50%、各授業の小レポート50%で評価する。		
成績評価基準	講義・セミナーの出席状況およびレポート提出により、授業内容を的確に理解できているかどうかを判定する。 講義の出席評価とレポートの課題・評価方法が担当教員によって多少異なるので、各担当教員の講義の際に詳細を説明する。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を”優”、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を”良”、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を”可”とする。		
履修上の注意 （関連科目情報）	大学院博士課程の科目（産学連携特論（分子標的薬学特論）、先端医学トピックス）と合同で開講する場合があります。事前にポスター掲示を行います。		
事前・事後学修	事前学修：各回の授業で取り扱う項目について、各講座ホームページや関連する論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の授業で取り扱った事項について、小レポートにまとめること。 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。		
学生へのメッセージ	連絡事項等はBEEFで通知するので各回の授業前には必ずBEEFを確認すること。		
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、来室前に必ずメール等にてアポイントメントを取ること。 【研究室】医学研究科B棟7階 細胞生理学分野 【連絡先】南 康博（代表者）：minami@kobe-u.ac.jp		
今年度の工夫	今年度は、これまでの様々な病態・疾患についての病態メカニズムの講義に加えて、創薬に向けたスタートアップや産学連携活動を推進するために、製薬企業等の専門家による分子標的薬学特論についての講義を行い、病態メカニズムに立脚した創薬などの社会実装に向けた方策を理解できるように留意した。		
教科書	特にないが、一部授業においてはBEEFで資料を配布する予定です。		
参考書・参考資料等	特になし		
授業における使用言語	日本語		
キーワード	病変・病態のメカニズム、医薬品開発、スタートアップ・産学連携		

2023年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	社会医学・生命倫理・安全		
コーディネータ	篠原 正和		
授業形式	講義	配当年次	修士1年次
単位数	2単位	選択・必修	必修
曜日・時限	前期 金曜日 18:00～19:30		
担当分野名	分子疫学分野、医療の質・安全管理部、薬物動態学・薬剤学分野、法医学分野、環境保全推進センター、人文学研究科、法学研究科、神戸学院大学栄養学部、富山大学学術研究部医学系		
担当教員名	篠原正和、西森誠、片岡葵、小林和幸、矢野育子、上野易弘、吉村知里、茶谷直人、井上典之、坊池義浩、高岡裕、		
授業のテーマ	医学と社会の関わり、医学・医療に関わる倫理・安全について理解する。		
授業の到達目標	医学と社会の関わり、医学・医療に関わる倫理・安全について最新の情報を理解することができる。		
授業の概要と計画	前期(4月～7月)の金曜日18:00～19:30に第二講堂(医学研究科研究棟B 2階)にてハイブリッド型で授業を行う。授業日程を変更する必要がある場合には、随時、通知する。 1) 4/14 (金)「公衆衛生学概論」担当:篠原正和 2) 4/21 (金)「医療情報」担当:高岡裕 3) 4/28 (金)「有機溶剤を安全に使用する」担当:篠原正和 4) 5/12 (金)「医療安全」担当:小林和幸 5) 5/19 (金)「排水管理」担当:吉村知里 6) 5/26 (金)「理系研究者のためのAI入門」担当:西森誠 7) 6/2 (金)「研究倫理」担当:篠原正和 8) 6/9 (金)「薬害」担当:矢野育子 9) 6/16 (金)「性自認と多様性社会-憲法からの視点」担当:井上典之 10) 6/23 (金)「輸血療法の安全性確保とインフォームドコンセントについて」担当:坊池義浩 11) 6/30 (金)「患者の自律・自己決定権をめぐる倫理学的考察」担当:茶谷直人 12) 7/7 (金)「成人保健と健康増進」担当:篠原正和 13) 7/14 (金)「公的統計データを活用した社会疫学研究」担当:片岡葵 14) 7/21 (金)「法医鑑定1」担当:上野易弘 15) 7/28 (金)「法医鑑定2」担当:上野易弘		
成績評価方法	授業への出席状況50%、レポート50%で評価する。		
成績評価基準	(1)医学と社会の関わりについて理解できているか (2)医学・医療に関わる倫理・安全について理解できているか		
履修上の注意 (関連科目情報)	遅刻、私語、早期退出は認められない。		
事前・事後学修	事前学修:各回の授業で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修:各回の授業で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業で学んだことについてまとめること。 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。		
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。		
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医学研究科研究棟C棟2階 疫学分野 金曜日午後 メールにて随時受け付けをします。篠原正和 mashino@med.kobe-u.ac.jp		
今年度の工夫			
教科書	BEEFで資料を配布します。 講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
参考書・参考資料等	特になし		
授業における使用言語	日本語		
キーワード			

2023年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	バイオサイエンス基本実習		
コーディネータ	各所属分野の分野長		
授業形式	実習	配当年次	修士1年次
単位数	4単位	選択・必修	必修
曜日・時限	通年		
担当分野名	各所属分野		
担当教員名	各教員		
授業のテーマ	各所属分野の研究テーマに沿って、必要な基本的実験手技を修得し、修士論文を作成する能力を育成する。		
授業の到達目標	修士論文作成のための研究テーマにおいて必要となる様々な基本技術を自分自身で行えるようになることを習得する。		
授業の概要と計画	各専門分野の研究で用いられる基本技術の原理を解説するとともに実践的に体験させる。さらに自主的に反復させることで十分に習熟させる。 研究に用いられる基本技術の操作だけでなく、原理を十分に理解させることに留意する。 実習期間は1年間とする。		
成績評価方法	基本技術の理解度を試問するとともに、実践における習熟度を確認し、これを総合的に評価する。		
成績評価基準	基本技術の原理を修得できているか。 基本技術を修得し、自分自身で実験を行えるようになっているか。 実験結果を適切に解釈できるようになっているか。		
履修上の注意 (関連科目情報)	研究テーマに関する著書・論文等に目を通しておくこと。		
事前・事後学修	事前学修: 各回の授業で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。 事後学修: 各回の授業で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業で学んだことについてまとめること。		
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的 attitude で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。		
オフィスアワー・連絡先	担当: 各所属分野の教員 随時受け付ける。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。		
今年度の工夫			
教科書	各教員の指示による。講義内容に合わせて、必要な教科書、論文等を別途お知らせします。		
参考書・参考資料等	各教員の指示による。講義内容に合わせて、必要な教科書、論文等を別途お知らせします。		
授業における使用言語	日本語		
キーワード			

2023年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	文献解析・プレゼンテーション演習		
コーディネータ	各所属分野の分野長		
授業形式	演習	配当年次	修士1年次
単位数	4単位	選択・必修	必修
曜日・時限	通年		
担当分野名	各所属分野		
担当教員名	各教員		
授業のテーマ	文献を検索し解析することで研究に必要な知識を修得する。 研究に必要な情報を修得し、明解に発表できるプレゼンテーション能力を養成する。		
授業の到達目標	研究に必要な文献情報を解析して十分に理解し、それらをまとめて明解に発表できるプレゼンテーション力を養う。		
授業の概要と計画	専門分野における英語原著論文や総説を読み、研究における論理構成と最新の知識を学ぶ。さらに、論文の内容を理解し、批評を加えつつ要約を発表して議論することにより、理解力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。プレゼンテーション技術向上のため、定期的に研究室内での発表会・討論会等を設ける。 演習期間は1年間とする。		
成績評価方法	研究室内での文献紹介や討論会において、文献解析における理解力とプレゼンテーション技術をもとに総合的に評価する。		
成績評価基準	論文の内容を理解し、論理的に説明することができるか。 研究に必要な情報を修得できているか。 論文のデータを解釈し、適切に評価することができるか。		
履修上の注意 (関連科目情報)	専門分野にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。		
事前・事後学修	事前学修: 各回の授業で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修: 各回の授業で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業で学んだことについてまとめること。 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。		
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。		
オフィスアワー・連絡先	担当: 各所属分野の教員 随時受け付ける。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。		
今年度の工夫			
教科書	各教員の指示による		
参考書・参考資料等	各教員の指示による		
授業における使用言語	日本語		
キーワード			

2023年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	バイオメディカルサイエンス特別研究		
コーディネータ	各所属分野の分野長		
授業形式	実習	配当年次	修士1-2年次
単位数	10単位	選択・必修	必修
曜日・時限	通年		
担当分野名	各所属分野		
担当教員名	各教員		
授業のテーマ	各所属分野の専門分野において実践的研究遂行能力を修得する。 未解決の課題に対し仮説を立て、検証し、論理的に問題を解決し、研究を遂行する能力を育成する。		
授業の到達目標	修士の学位取得に向けた指導体制のもとに、課題について質の高い研究を遂行する能力を養い、研究成果をまとめた修士論文を完成させる。		
授業の概要と計画	専門分野において実践的に研究を行う。未解決の課題に取り組みながら、専門的な研究手法を修得させるとともに、論理的に問題を解決する研究の進め方を身につけさせる。 研究課題が段階的に遂行されるよう定期的な報告会を設定する。 実習期間は2年間とする。		
成績評価方法	研究に対する意欲、自主性、研究指導を受ける態度、研究遂行能力、論文の構成力と内容等をもとに総合的に評価する。		
成績評価基準	研究課題を意欲的に解析し、論理的に問題を解決する研究遂行能力を修得できているか。 研究成果を質の高い論文にまとめる構成力を修得できているか。		
履修上の注意 (関連科目情報)	研究課題などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。		
事前・事後学修	事前学修: 各回の授業で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修: 各回の授業で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業で学んだことについてまとめること。 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。		
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。		
オフィスアワー・連絡先	担当: 各所属分野の教員 随時受け付ける。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。		
今年度の工夫			
教科書	各教員の指示による。研究課題に合わせて、別途お知らせします。		
参考書・参考資料等	各教員の指示による。研究課題に合わせて、別途お知らせします。		
授業における使用言語	日本語		
キーワード			

2023年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	シグナル伝達特論		
コーディネータ	鈴木 聡		
授業形式	講義	配当年次	修士1年次
単位数	2単位	選択・必修	選択必修
曜日・時限	前期 月曜日 18:00～20:00（4月10日と5月15日は18:00～21:00、5月22日と6月12日は17:00～19:00）		
担当分野名	生化学・シグナル統合学、膜生物学、分子細胞生物学、膜動態学、動物実験施設 バイオシグナル総合研究センター：分子薬理学、生体膜機能学、 神戸薬科大学：医療薬学、 東京医科歯科大学：病態生理化学、発生再生生物学		
担当教員名	足立直子、伊藤俊樹、岡田太郎、梶保博昭、梶本武利、佐々木雄彦、鈴木聡、辻田和也、 西尾美希、仁科博史、前濱朝彦、森岡裕香、力武良行		
授業のテーマ	細胞内シグナル伝達		
授業の到達目標	細胞内シグナル伝達を理解する。 分子レベルで生命現象及びその病態への理解を深めることができる。		
授業の概要と計画	前期(4月～9月)の月曜日18:00～20:00(4月10日,5月15日/18:00-21:00)(5月22日,6月12日/17:00-19:00)に第二講堂(医学研究科研究棟B 2階)にてハイブリット型で行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合や遠隔授業に変更する時には、事前に通知する。 基本的に各講義資料はBeefに掲載予定である。 1) 4/10(月)「シグナル伝達序論とがんの発症機構」-Cell signaling and the onset of cancers- 担当:鈴木 2) 4/17(月)「リン酸化酵素を介するシグナル伝達」-Cell signaling through protein kinases- 担当:梶本 3) 4/24(月)「システイン残基の翻訳後修飾が司るシグナル伝達と疾患」-Protein cysteine modifications in signal transduction- 担当:足立 4) 5/8(月)「スフィンゴ脂質を介するシグナル伝達」-Cell signaling through sphingolipids- 担当:岡田 5) 5/15(月)「PI3K シグナルと発がん」-PI3K signaling in cancer- 担当:前濱 6) 5/22(月)「リン脂質による細胞ダイナミクスと病態」-Phospholipids in cell dynamics and their disorders- 担当:佐々木 7) 5/29(月)「小胞輸送によるシグナル伝達 (1)」-Vesicle transport dependent signal transduction (1)- 担当:梶保 8) 6/05(月)「小胞輸送によるシグナル伝達 (2)」-Vesicle transport dependent signal transduction (2)- 担当:梶保 9) 6/12(月)「JNKおよびHippoリン酸化シグナル伝達経路の生理的役割」-Physiological role of the JNK and Hippo phosphorylation signalling pathways.- 担当:仁科 10) 6/19(月)「Hippo シグナルによる生体制御」-Role of Hippo signaling pathway in vivo- 担当:西尾 11) 6/26(月)「生体膜の形状制御とシグナル伝達」-Membrane curvature regulation in signal transduction- 担当:伊藤 12) 7/03(月)「低分子量G 蛋白質を介するシグナル伝達」-Small GTPase-mediated signal transduction- 担当:力武 13) 7/10(月)「がん細胞の運動とシグナル伝達」-Cancer cell migration and signal transduction- 担当:辻田 14) 7/24(月)「in vivo研究に必要な動物実験」-Animal experiments required for in vivo studies- 担当:森岡		
成績評価方法	各講義後に小テストあるいは小レポートを行い、評価が60点以上となったものを合格とします。 評価の目安は、講義の内容を十分に理解して知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を“優”，その中でもさらに優れたものについては“秀”，講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を“良”，講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を“可”とします。		
成績評価基準	細胞内シグナル伝達の生理的役割、意義、研究手法等を理解できているか？ またシグナル伝達の破綻病態を説明できるか？		
履修上の注意 （関連科目情報）	授業が始まると静粛にし、熱心に授業を聞くようにしてください。 授業中の携帯電話の使用も禁止です		
事前・事後学修	準備学習・復習については授業中に追って指示します。 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。		
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけてください。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望んでください。		
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科B棟2階分子細胞生物学研究室 【連絡先】6052に電話してアポイントを取ってください。		
今年度の工夫			
教科書	参考書や参考資料等に関する情報は、必要があれば授業中に別途指示します		
参考書・参考資料等	参考書や参考資料等に関する情報は、必要があれば授業中に別途指示します		
授業における使用言語	日本語		
キーワード	細胞内シグナル伝達		

2023年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	細胞分子医学特論		
コーディネータ	榎本 秀樹		
授業形式	講義	配当年次	修士1年次
単位数	2単位	選択・必修	選択必修
曜日・時限	前期 水曜日 18:00～20:00		
担当分野名	神経分化・再生、幹細胞医学分野、細胞生理学、生理学、生化学・シグナル統合学分野(シグナル統合学)		
担当教員名	榎本秀樹・上坂敏弘・伊藤圭祐(神経分化・再生分野)、青井貴之(幹細胞医学分野)、遠藤光晴(細胞生理学)、橘吉寿(生理学)、井垣達吏(京都大学)、古瀬幹夫・泉裕士(生理学研究所)、齊藤泰之《生化学・シグナル統合学分野(シグナル統合学)》		
授業のテーマ	生体組織の基本的構造および発生・再生の機構を学ぶことにより、多細胞システムを維持する仕組みを理解する。		
授業の到達目標	・体の中に存在する幹細胞とそれを維持する環境 (Niche) についての知見、そして医療に向けた取り組みの状況を理解する。また腸管を例にとり、生体制御系の構築と維持、そして制御機構に関する研究経緯について理解を深める。(上坂) ・「幹細胞」の定義とその具体例を学ぶ。また、体細胞初期化に関する研究の流れと、その応用に向けた課題について理解する。(青井) ・器官発生や疾患のメカニズム解析にどのような遺伝子改変マウスが有用かについて概説する。(榎本) ・神経系の発生を支える神経栄養因子の分子基盤と、その破綻により生じる病態について学ぶ。また軸索ガイダンス分子を中心に、神経発生を支える分子メカニズムについても学ぶ。(伊藤) ・生体内の細胞は互いに生存競争したり協調したりすることで生体恒常性を維持している。細胞間の競合や協調がどのようにしてがんの発生や進展を制御するのか、その基本原理を学ぶ。(井垣) ・中枢神経系の再生が困難である背景を理解し、その再生を実現するための戦略について学ぶ。(遠藤) ・大脳皮質の大脳基底核の発生を学ぶと共に、齧歯類と霊長類での脳構造と機能の違いを理解する。(橘) ・血液/免疫細胞の分化機構、ならびにヒトマウス間の異種免疫について理解し、ヒト血液/免疫系がマウス内でどのように樹立されるか学習する(齊藤) ・発生過程や器官の形成に重要な細胞極性と非対称分裂について、その制御機構の基礎を理解する。(泉) ・からだの恒常性維持に欠かせない上皮バリア機能を支える細胞間接着構造の分子基盤、その異常により生ずる病態と研究発展の経緯について学ぶ。(古瀬) ・生体恒常性の維持に不可欠な臓器神経系の発生と機能について概説する。(榎本)		
授業の概要と計画	原則、前期(4月～9月)の水曜日18:00～20:00に第二講堂(医学研究科研究棟B 2階)で、ハイブリッド型で行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、通知する。 1) 4/12(水)「組織恒常性維持と成体幹細胞」担当: 上坂 2) 4/19(水)「消化管:細胞、組織間のクロストーク」担当: 上坂 3) 4/26(水)「”体細胞初期化”クロニクル」担当: 青井 4) 5/10(水)「マウスを試験管に発生と病気のメカニズムを探る」担当: 榎本 5) 5/17(水)「神経系の発生と病態に関わる神経栄養因子」担当: 伊藤 6) 5/24(水)「幹細胞医学総論」担当: 青井 7) 5/31(水)「iPS細胞の”実用化”に向けた諸問題」担当: 青井 8) 6/7(水)「細胞の競合と協調によるがん制御」担当: 井垣 9) 6/14(水)「中枢神経系の再生」担当: 遠藤 10) 6/21(水)「大脳皮質と大脳基底核の発生」担当: 橘 11) 6/28(水)「神経発生における軸索ガイダンス分子」担当: 伊藤 12) 7/5(水)「ヒト免疫をマウスで再現する～免疫系ヒト化マウスを用いた研究(仮)」担当: 齋藤 13) 7/12(水)「細胞極性と非対称分裂」担当: 泉 14) 7/19(水)「細胞接着と上皮バリア機能」担当: 古瀬 15) 7/26(水)「臓器神経系の発生と機能」担当: 榎本		
成績評価方法	授業への参加度20%、各授業の小レポート80%で評価する。		
成績評価基準	初期胚の発生機構、神経系の発生・再生、上皮の特性、免疫系の機能、細胞の初期化、細胞競合について理解出来ているか。		
履修上の注意 (関連科目情報)	講義内容に関するレポートを課すので、質問などを通して講義に積極的に参加すること。		
事前・事後学修	事前学修: 各回の授業で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修: 各回の授業で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業で学んだことについてまとめること。 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。		
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。		
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科C棟5階 神経分化・再生分野 10:00-17:00		
今年度の工夫			
教科書	講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
参考書・参考資料等	講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
授業における使用言語	日本語		
キーワード	解剖学(組織学・発生学)、再生医学、幹細胞、細胞競合、免疫学		

2023年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	薬物治療学特論		
コーディネータ	矢野 育子		
授業形式	講義	配当年次	修士1年次
単位数	2単位	選択・必修	選択必修
曜日・時限	前期 火曜日 17:30～20:00		
担当分野名	薬剤学、薬理学		
担当教員名	矢野育子、古屋敷智之、坂根稔康、中村 任、北川裕之、山本和宏、松本浩彦、大村友博、真田 昌爾、糸原光太郎、木村丈司、宇田篤史、丹田雅明		
授業のテーマ	薬物治療における分子メカニズムを理解する。 薬物動態学の基本を修得し、医薬品の適正使用に関連づける能力を育成する。 臨床研究や臨床試験を行う上で配慮すべき点について学習する。		
授業の到達目標	薬物治療における分子メカニズムについて理解できるようになる。 薬物動態の基本を修得し、医薬品適正使用上の注意点が説明できるようになる。 臨床研究や臨床試験を行う上で配慮すべき点について理解できるようになる。		
授業の概要と計画	前期(4月～9月)の火曜日17:30～20:00に第二講堂(医学研究科研究棟B 2階)で、ハイブリッド型で行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、通知する。 1) 5/23(火)「臨床薬理学総論／確認テスト」 担当:矢野 2) 5/30(火) 「小胞体ストレスを起因とする疾患と治療戦略:パーキンソン病を中心に/確認テスト」 担当:大村 3) 6/6(火)「薬理学総論/確認テスト」担当:古屋敷 4) 6/13(火) 「脳への薬物送達:いかにしてBBBを克服するか/確認テスト」 担当:坂根 5) 6/20(火)「個別化投与設計を目的とした薬物速度論研究／確認テスト」担当:糸原 6) 6/27(火)「糖鎖合成異常による疾患と治療／確認テスト」 担当:北川 7) 7/4(火)「抗がん薬の有効性・安全性におけるゲノム薬理学的研究/確認テスト」 担当:山本 8) 7/11(火)「がん化学療法時の薬物体内動態とバイオメタル情報について/確認テスト」 担当:中村 8) 7/18(火) 「高齢者薬物療法とポリファーマシーの問題」担当:木村 9) 7/25(火)「診療と研究の違い/臨床研究のイロハ/確認テスト」 担当:真田 10) 8/1(火)「抗菌薬のPK/PD理論と適正使用に向けた治療戦略」担当:宇田 11) 8/8(火)「抗がん薬治療の副作用と薬物相互作用への対応」担当:丹田		
成績評価方法	授業への参加度40%、各授業の確認テスト60%で評価する。 授業への参加度(授業中の発言等)や確認テストの内容をもって評価する。		
成績評価基準	薬物治療における分子メカニズムについて修得できているか。 薬物動態の基本を修得し、医薬品適正使用上の注意点が説明できているか。 臨床研究や臨床試験を行う上での配慮すべき点について理解できているか。		
履修上の注意 (関連科目情報)	薬理学や臨床薬理学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。		
事前・事後学修	事前学修:各回の授業で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修:各回の授業で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業で学んだことについてまとめること。 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。		
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。		
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】附属病院外来診療棟地下1階 薬剤部 薬剤部長室 【連絡先】薬剤部秘書室(メール:hisyo@med.kobe-u.ac.jp)にてアポイントを取ってください。		
今年度の工夫	薬物治療学の基礎となる臨床薬理学総論、薬理学総論を行います。		
教科書	講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
参考書・参考資料等	講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
授業における使用言語	日本語		
キーワード	臨床薬理、薬物動態、薬理作用、副作用、治験		

2023年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	基礎解剖学		
コーディネータ	仁田 亮		
授業形式	講義	配当年次	修士1年次
単位数	2単位	選択・必修	選択必修
曜日・時限	集中講義		
担当分野名	生体構造解剖学分野		
担当教員名	仁田 亮、吉川 知志、仁田 英里子、今崎 剛、山本 正道、荒川 高光、江村 健児		
授業のテーマ	人体の構造を機能と関連づけて理解する		
授業の到達目標	(1)人体の構造を機能と関連付けて理解し、頭の中で人体の三次元構造を構築できるようになること。 (2)中枢神経系の基本的な構造と機能、主要な神経回路について理解すること。		
授業の概要と計画	前期(4月～5月)に集中講義として対面授業で行う。講義資料は随時BEEFにアップロードする。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、通知する。 01) 4月06日(木) 10:10～11:10「人体解剖学講義01」骨学総論 / 骨の連結(関節学・靱帯学)総論 担当:江村 02) 4月06日(木) 11:20～12:20「人体解剖学講義02」筋学総論 担当:江村 03) 4月06日(木) 13:20～14:20「人体解剖学講義03」解剖学ガイダンス 担当:仁田 04) 4月06日(木) 14:30～15:30「人体解剖学講義04」解剖学ガイダンス・解剖学総論 担当:仁田 05) 4月06日(木) 15:40～16:40「人体解剖学講義05」解剖学総論 担当:仁田 06) 4月07日(金) 14:30～15:30「人体解剖学講義06」血管系総論 担当:仁田 07) 4月07日(金) 15:40～16:40「人体解剖学講義07」血管系各論 担当:仁田 08) 4月10日(月) 10:10～11:10「人体解剖学講義08」心臓 担当:仁田 09) 4月10日(月) 11:20～12:20「人体解剖学講義09」リンパ・免疫系総論 担当:仁田(英) 10) 4月11日(火) 10:10～11:10「人体解剖学講義10」体幹の骨 担当:荒川 11) 4月11日(火) 11:20～12:20「人体解剖学講義11」上肢の骨 担当:荒川 12) 4月11日(火) 13:20～14:20「人体解剖学講義12」下肢の骨 担当:荒川 13) 4月11日(火) 14:30～15:30「人体解剖学講義13」あたまの骨 担当:吉川 14) 4月14日(金) 09:00～10:00「人体解剖学講義14」消化器(上部消化管) 担当:仁田 15) 4月14日(金) 10:10～11:10「人体解剖学講義15」消化器(腹膜・下部消化管) 担当:仁田 16) 4月14日(金) 11:20～12:20「人体解剖学講義16」消化器(下部消化管) 担当:仁田 17) 4月14日(金) 13:20～14:20「人体解剖学講義17」消化器(肝胆膵) 担当:仁田 18) 4月14日(金) 14:30～15:30「人体解剖学講義18」内分泌系 担当:仁田(英) 19) 4月18日(火) 09:00～10:00「人体解剖学講義19」呼吸器系(1) 担当:仁田 20) 4月18日(火) 10:10～11:10「人体解剖学講義20」呼吸器系(2) 担当:仁田 21) 4月18日(火) 11:20～12:20「人体解剖学講義21」泌尿器 担当:山本 22) 4月18日(火) 13:20～14:20「人体解剖学講義22」生殖器・会陰(1) 担当:仁田 23) 4月18日(火) 14:30～15:30「人体解剖学講義23」生殖器・会陰(2) 担当:仁田 24) 4月19日(水) 14:30～15:30「人体解剖学講義24」末梢神経系総論/自律神経系総論 担当:吉川 25) 4月20日(木) 09:00～10:00「人体解剖学講義25」脊髄神経・骨格筋(1) 担当:今崎 26) 4月20日(木) 10:10～11:10「人体解剖学講義26」脊髄神経・骨格筋(2) 担当:今崎 27) 4月20日(木) 11:20～12:20「人体解剖学講義27」脊髄神経・骨格筋(3) 担当:今崎 28) 4月21日(金) 10:10～11:10「人体解剖学講義28」脳神経(1) 担当:吉川 29) 4月21日(金) 11:30～15:30「人体解剖学講義29」脳神経(2) 担当:吉川 30) 4月21日(金) 13:20～14:20「人体解剖学講義30」視覚器 / 聴覚器 担当:吉川 31) 5月23日(火) 13:20～14:20「神経解剖学講義01」神経組織学・変性・再生 担当:今崎 32) 5月23日(火) 14:30～15:30「神経解剖学講義02」脊髄 担当:今崎 33) 5月24日(水) 09:00～10:00「神経解剖学講義03」延髄 担当:今崎 34) 5月24日(水) 10:10～11:10「神経解剖学講義04」橋 担当:吉川 35) 5月24日(水) 11:20～12:20「神経解剖学講義05」中脳 担当:吉川 36) 5月26日(金) 10:10～11:10「神経解剖学講義06」小脳 担当:吉川 37) 5月26日(金) 11:20～12:20「神経解剖学講義07」間脳 担当:吉川 38) 5月26日(金) 13:20～14:20「神経解剖学講義08」大脳基底核 担当:吉川 39) 5月26日(金) 14:30～15:30「神経解剖学講義09」大脳皮質 担当:吉川 40) 5月30日(火) 13:20～14:20「神経解剖学講義10」髄膜と脳脊髄液 担当:吉川 41) 5月30日(火) 14:30～15:30「神経解剖学講義11」脳の血管 担当:吉川 42) 5月31日(水) 09:00～10:00「神経解剖学講義12」運動路 担当:吉川 42) 5月31日(水) 10:10～11:10「神経解剖学講義13」感覚路 担当:吉川		
成績評価方法	授業への参加度20%(上記授業計画のうち、20時間以上の出席が必要)、レポート試験80%で評価する。		
成績評価基準	(1)人体の構造を機能と関連付けて理解できているか。 (2)中枢神経系の基本的な構造と機能、主要な神経回路を理解できているか。		
履修上の注意 (関連科目情報)	・講義における人体の機能に応じた系統的な構造の学習(系統解剖学)と、人体解剖学指定教科書(解剖学講義)の自学自習による胸部、腹部など局所ごとの構造の学習(局所解剖学)を併用すること。		
事前・事後学修	事前学修:各回の授業で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修:各回の授業で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業で学んだことについてまとめること。		
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。		
オフィシアワー・連絡先	メールにて随時受け付けます。		
今年度の工夫			
教科書	■解剖学講義(伊藤隆著、南山堂):記述が平易でよくまとまっており、通読に適した好著である。図版との併用で3次元構造の理解を進めてほしい。 ■カラー図解 神経解剖学講義ノート(寺島俊雄著、金芳堂):前任教授の手による歴代神大生御用達の快著。		
参考書・参考資料等	■ネッター解剖学アトラス(相磯貞和訳、南江堂)		
授業における使用言語	日本語		
キーワード			

2023年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	微生物感染症学特論		
コーディネータ	森 康子		
授業形式	講義	配当年次	修士1年次
単位数	2単位	選択・必修	選択必修
曜日・時限	後期 木曜日 13:00～15:30		
担当分野名	臨床ウイルス学分野		
担当教員名	重村 克巳、亀岡 正典、有井潤、阿部隆之、矢野 嘉彦、勝二 郁夫、白川 利朗、斎藤 あつ子、入子 英幸、青枝 大貴、伊藤 正恵、森 康子		
授業のテーマ	微生物感染症学(ウイルス学、細菌学、真菌学、寄生虫学、感染免疫学)の基礎を修得する。 さらに、微生物感染症学研究の最先端のトピックスに触れ、生命科学研究における微生物感染症学の意義と展望について学習する。		
授業の到達目標	BMS専攻に必要な微生物感染症学(ウイルス学、細菌学、真菌学、寄生虫学、感染免疫学)の知識を修得する。また、時に応じて、微生物感染症学研究の最先端のトピックスに触れ、生命科学研究における微生物感染症学の意義と展望について学ぶ。		
授業の概要と計画	後期(10月～3月)の木曜日13:00～15:30にB講義室(外来診療棟 5階)で、ハイブリッド型で行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時通知する。 1) 10/5(木) 「腸チフス」 担当:白川 利朗 2) 10/12(木) 「HIV」 担当:亀岡 正典 3) 10/19(木) 「人獣共通感染症」 担当:有井 潤 4) 10/26(木) 「B型肝炎」 担当:矢野 嘉彦 5) 11/2(木) 「C型肝炎ウイルス」 担当:勝二 郁夫 6) 11/9(木) 「ヘルペスウイルス感染症」 担当:森 康子 7) 11/16(木) 「感染免疫学とワクチン」 担当:青枝 大貴 8) 11/30(木) 「麻疹及びその他のパラミクソウイルス感染症」 担当:伊藤 正恵 9) 12/7(木) 「マラリア感染症」 担当:入子 英幸 10) 12/14(木) 「ウイルス感染と自然免疫応答」 担当:阿部 隆之 11) 12/21(木) 「性感染症」 担当:重村 克巳 12) 1/4(木) 「寄生虫症から学ぶ」 担当:斎藤 あつ子		
成績評価方法	講義への出席(演習での発言など)50%およびレポート提出(課題への取組等)50%により総合的に評価する。		
成績評価基準	講義の内容を十分に理解して知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を“優”，その中でもさらに優れたものについては“秀”，講義の内容はよく理解したが，積極性が十分でないと判断できる場合を“良”，講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を“可”とする。		
履修上の注意 (関連科目情報)	この専門領域トップクラスの講師を招き，講義を行ってもらうことにより学生の研究意欲の向上をはかる。実施した授業のテーマから任意の一つを選択して，レポートを提出。詳細は授業後半に指示する。		
事前・事後学修	事前学修:各回の授業で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修:各回の授業で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業で学んだことについてまとめること。 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。		
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。		
オフィスアワー・連絡先	医学研究科B棟4階 臨床ウイルス学分野研究室 E-mail: virology@med.kobe-u.ac.jp TEL: (078)382-6272 随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。		
今年度の工夫			
教科書	講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
参考書・参考資料等	講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
授業における使用言語	日本語		
キーワード			

2023年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	科学英語		
コーディネータ	佐々木 良平		
授業形式	講義	配当年次	修士1年次
単位数	1単位	選択・必修	選択必修
曜日・時限	後期 水曜日 16:00～17:30		
担当分野名	放射線腫瘍学分野		
担当教員名	Vijay Kharbas		
授業のテーマ	英語でのプレゼンテーションを修得する。 科学系および医学系の英語を修得する。		
授業の到達目標	英語でのプレゼンテーションを修得できるようになる。		
授業の概要と計画	後期(10月～12月)の水曜日16:00～17:30にオンライン方式で行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、通知する。 1) 10/4(水) プレゼンテーション 担当: Vijay Kharbas 2) 10/11(水) プレゼンテーション 担当: Vijay Kharbas 3) 10/18(水) プレゼンテーション 担当: Vijay Kharbas 4) 10/25(水) プレゼンテーション 担当: Vijay Kharbas 5) 11/1(水) プレゼンテーション 担当: Vijay Kharbas 6) 11/8(水) プレゼンテーション 担当: Vijay Kharbas 7) 11/15(水) プレゼンテーション 担当: Vijay Kharbas 8) 11/22(水) プレゼンテーション 担当: Vijay Kharbas 9) 11/29(水) 予備日		
成績評価方法	授業への参加度50%、プレゼンテーション50%で評価する。		
成績評価基準	わかりやすい英語プレゼンテーションの方法を修得し、実践できているか。 講義内で実際にプレゼンテーションを行い、評価する。		
履修上の注意 (関連科目情報)	随時参考文献などを提示するのでその著書・論文等に目を通しておくこと。		
事前・事後学修	事前学修:各回の授業で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修:各回の授業で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業で学んだことについてまとめること。 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。		
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。		
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科A棟5階放射線腫瘍学分野研究室 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。078-382-5687(内線:5687) 担当: 椋本		
今年度の工夫			
教科書	講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
参考書・参考資料等	講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
授業における使用言語	英語		
キーワード			